

日本オセアニア学会創立 40 周年記念公開シンポジウム開催のお知らせ

日本オセアニア学会会長
山本真鳥

1977 年の創立以来、日本オセアニア学会は人文科学、社会科学、自然科学の多岐に亘る会員の活動に支えられ、その研究成果の公開と国際的な学術交流に積極的に取り組んできました。2017 年度に本学会創立 40 周年を迎えて、今年、その記念事業の一環として下記の通り一般公開シンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、日本のオセアニア研究がこれまでどのような貢献を成し、さらに今後どのような貢献を成し得るのかを検討し、ウミとシマの存在を鍵に世界の在り方を捉える新たな視座について議論します。

記

日本オセアニア学会創立 40 周年記念公開シンポジウム
「ウミとシマの世界を見る眼ーオセアニア研究のこれまで、いま、そして、これから」

【開催日時】 2018 年 3 月 21 日（水／春分の日）午後 1 時～午後 4 時

【開催会場】 沖縄県立博物館・美術館講堂（沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1）

沖縄都市モノレールゆいレール おもろまち駅下車 徒歩 10 分

交通アクセス：<http://okimu.jp/guide/access/>

【開催形式】 一般公開・参加費無料・参加登録不要

【後援】 一般財団法人沖縄美ら島財団、沖縄県立芸術大学附属研究所、
沖縄国際大学南島文化研究所、沖縄文化協会、
地域研究コンソーシアム(JCAS)、日本文化人類学会、
明治大学島嶼文化研究所、琉球大学国際沖縄研究所

【本件問い合わせ先】 棚橋訓宛て（tanahashi.satoshi[アットマーク]ocha.ac.jp）

【プログラム】

司会：棚橋 訓（お茶の水女子大学教授）

開会の辞：会長 山本真鳥（法政大学教授）

趣旨説明：棚橋 訓

パート 1 考古／先史から見る

山口 徹（慶應義塾大学教授）

「オセアニア島嶼の歴史生態学：先史と植民地期の架橋」

小野林太郎（東海大学准教授）

「地中に遺された海と島世界の人類史：オセアニア考古学の特徴と島研究への貢献」

パート2 人類生態から見る

大塚柳太郎（一般財団法人自然環境研究センター理事長、東京大学名誉教授）

「私にとってのオセアニア研究とオセアニア学会」

古澤拓郎（京都大学准教授）

「グローバル化時代のオセアニア地域研究と人類生態学」

パート3 社会／言語／文化から見る

吉岡政徳（放送大学兵庫学習センター客員教授、神戸大学名誉教授）

「「辺境としてのオセアニア」を抜け出すことはできるか：文化人類学とオセアニア研究」

菊澤律子（国立民族学博物館准教授）

「オセアニア言語研究の過去（これまで）と未来（これから）」

深山直子（首都大学東京准教授）

「植民地主義に抗するオセアニア：先住民による文化の復興と創造へのまなざし」

ディスカッサント1 沖縄のシマから見る眼

松島泰勝（龍谷大学教授）

ディスカッサント2 歴史を見る眼

須藤健一（堺市博物館長、国立民族学博物館名誉教授）

質疑応答

閉会の辞：会長 山本真鳥

以上